

# 日本の海岸線を歩く会報告書

2022年6月17日

報告者：友松知宏

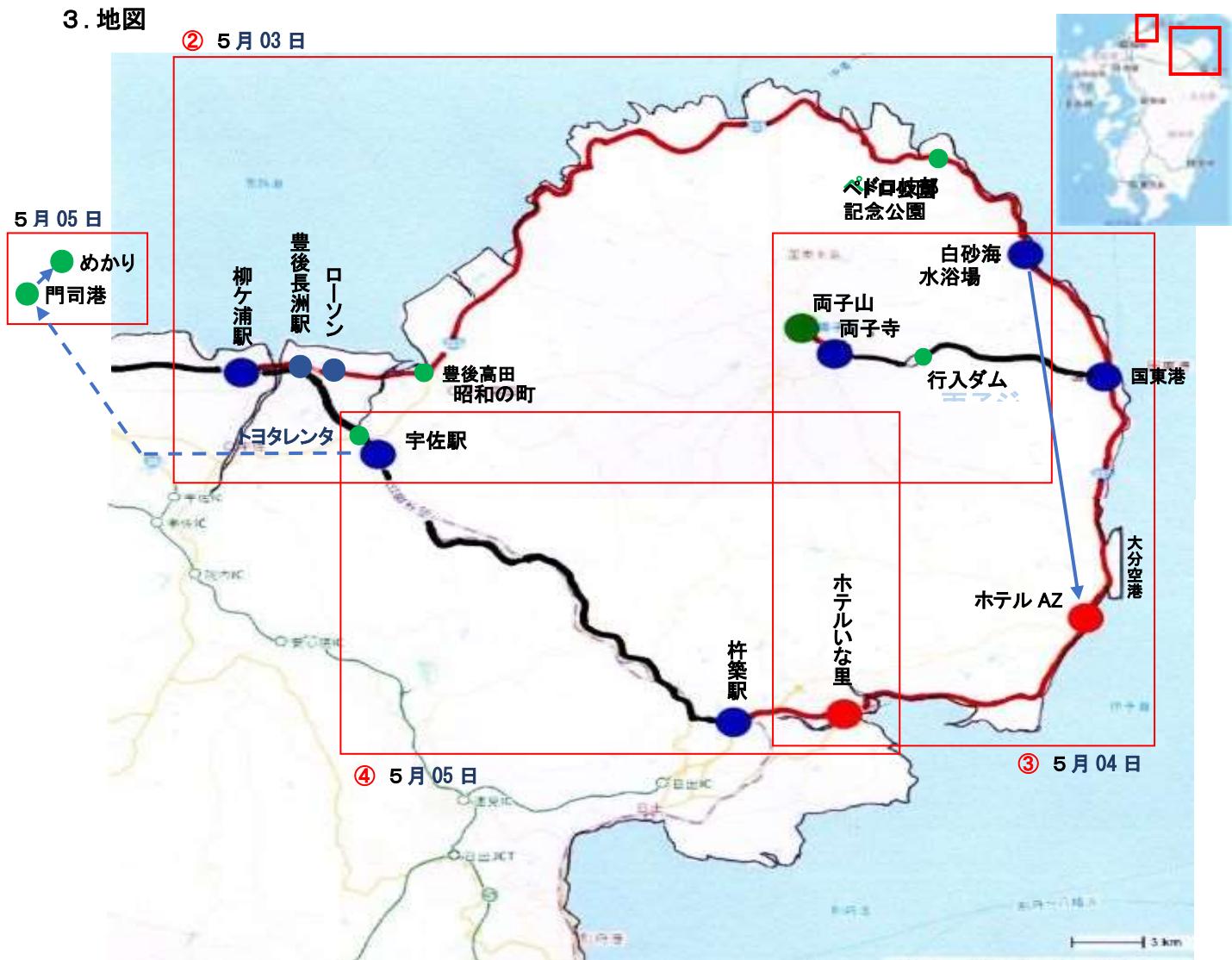
## 1. 計画の概要

ブロック名	九州(門司～杵築)-2
歩行区間	スタート地点：日豊本線柳ヶ浦駅 ゴール地点：日豊本線杵築駅
実施期間	令和4年5月2日(日)～5月5日(水)
歩行距離	84km
1人当費用	68,700円(68,940円)

## 2. メンバー

役割分担	氏名(年齢)	期	その他
1 リーダー・記録	友松知宏(82才)	8期	090-7774-8559
2 会計	友松和子(82才)	友松妻	
3	植田洋子(50才)	友松長女	

## 3. 地図



#### 4. 歩行概要

	月日	出発地～	到着地	距離	歩行者	備考（宿泊）
1	5/02	米子 17:26=19:39 岡山 19:55=小倉（泊） 新大阪 19:06=19:54 岡山 19:55=小倉（泊）			知・和 洋	東横イン/北口
2	03	小倉 07:14=(日豊線)=柳ヶ浦 08:00~08:45 ローソン長洲店 小倉 07:14=(日豊線)=柳ヶ浦 08:00=08:04 宇佐/トヨタレンタ =(車)=08:50 ローソン長洲店 ~09:23 高田（昭和の町）～国見～18:00 白砂海水浴場=安岐（泊）	2.6 和		知・洋	
3	04	白砂海水浴場 07:49~08:20F マート国東港店 08:30= 09:10 両子寺～11:30 両子山 11:40~13:00 両子寺=13:10 河原座 (昼食) 15:00=15:15 行入ダム 15:30=15:52F マート国東港～ 道の駅国東～大分空港～ホテルAZ 国東～志口公民館～守江局～ 19:45 杵築北浜（泊）	6.9 30.0		往復 7.0Km 標高差 400m	ホテルいな里
4	05	ホテルいな里 06:30=本庄交差点 06:45~07:30 ホテルいな里 06:45~07:20 杵築駅=ホテルいな里 杵築観光センター08:30～（市内観光）～11:30 観光センター 11:40=杵築駅=12:30 トヨタレンタ（車返却）～宇佐駅 12:50= 小倉=門司港（観光）16:47=17:00 小倉 17:26=みづほ 606 号= 18:52 岡山 19:05=やくも 25 号=21:23 米子=タクシーで帰宅 18:52 岡山 18:53=19:38 新大阪	2.9 2.1 知・和 洋	知・和・洋 和（知）		

84.0Km (91.0Km)

#### 5. 歩行詳細

九州東北部に団子鼻のように突き出した、国東半島の2／3（84Km）を歩いた。半島は、中央に聳える両子山（ふたごやま）から放射状に28の谷が広がり六つの里に分け、六郷と称した。この地に開かれた天台宗寺院全体を総称して六郷満山と呼び、神仏習合独特の信仰が形成され、半島一帯に百八十の寺院、洞窟、八百の石仏・石塔が点在し、仏の里と言われてきた。

**5月2日／晴れ** 岡山で新幹線さくら571に乗りあわせ、小倉の東横イン北口に宿泊。

**5月3日晴れ 07:14 小倉発。**

和子は柳ヶ浦駅で下車し、豊後長洲へ歩行。知宏、洋子は宇佐まで乗り越し、駅前のトヨタレンタカーで車を借り、ローソン長洲店で和子と合流。08:50 リレー歩行を開始。

毎日新聞のローカル面に、豊後高田「昭和の町」の記事を読み、初日から観光となつた。

映画「ナミヤ雑貨店」の主ロケ地で、昭和の頃のまゝに駄菓子屋 大衆食堂、カフェ・バー、美容院が営業しており、懐かしい。



10：34 かつらタクシー(知)～11:15 新玉中学校(洋)～臼野港(和)～三浦局(知)～テリアテル(洋)～堂園酒店(和)～NTT 変換所(知)～国東高(洋)～櫛来トンネル出口(和)～中岐部バス停(知)～向田海水浴場(洋)～国東町浜突堤(和)～白砂海水浴場(知) 18:00=車=18:30 ホテルAZ (泊)

翌日の観光時間を確保するため、今日の目標地、小熊毛を白砂海水浴場に延長。

日が陰り始めた頃、熊毛町岐部の村道分岐点にマリア像が建っているのを見つけ、立ち寄った。

小さな公園で像の足もとに、・岐部  
・カスイの名と、187名の殉教者慰靈  
と彫られた碑が据えられている。

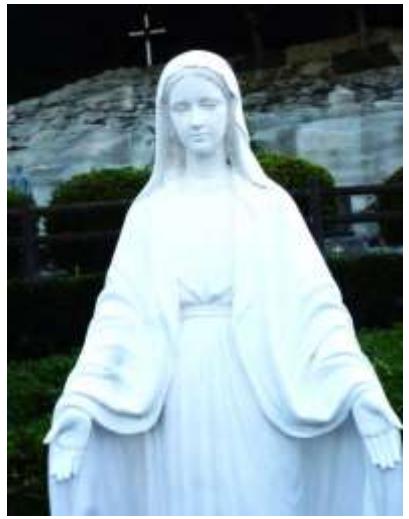
帰ってから調べて、たいへんな功績  
の人であることを知ったので、概略紹  
介する。

#### ペトロ・岐部・カスイ

本名岐部茂勝。1587年国東郡  
岐部で誕生。父・ロマーノ岐部は  
戦国大名大友氏の重臣。母・マリ  
アの実家は宇佐神宮の神官と由緒  
ある家柄の出である。



岐部神父像



マリア像

13歳で有馬のセミナリヨに入学。

1614年、江戸幕府のキリストン禁止令によってマカオへ追放され、同地のコレジオでラテン語と  
神学を学ぶ。ローマのイエズス会本部を目指し、マンショ小西等とともにマラッカ、ゴアへ船で渡  
り、単身、陸路インド、ペルシャ、バグダードを経て、日本人としてはじめてエルサレム入り。

1620年、ローマにたどりつき、32歳で司祭に叙階された。

日本での布教を希望。1630年にマニラから船に乗り、薩摩の坊津に上陸。厳しい弾圧のなか、岐  
部は潜伏し、迫害と摘発を逃れながら、東北へ向かい、1639年に仙台にあるキリストンの家に  
匿わっていたところを密告され逮捕された。江戸に送られ、激しい拷問を受けるが、棄教せ  
ず、1639年火刑に処された。

国道に沿った、砂浜海岸を歩いた。



白砂海水浴場にて和子・洋子



5月4日／晴れ 白砂海水浴場にもどり 7:49 歩行開始。8:20 Fマート国東港店に集合し、両子寺に向かう。

9:30 両子寺駐車場。仁王門から参道を上る。

本堂を抜けて、急な石段を上がった所が奥の院。後背の断崖に洞窟があり、10mほど入った処が広間で、蠟燭が灯され、数体の石仏が安置されている。



国東にはこのような洞窟が百八十ヶ所あるらしい。

お布施を置き、線香を供える。

奥の院から七不思議の一つ「鬼の背割」に行くつもりであったが、急な鎖場をよじ登らなければならぬので、ガイドにある、背割の出口から入ることにして、舗装された林道を登る。



道々注意しながら登るが、出口の標識はなく、下りに探すことにして頂上へ向かう。



電波塔の工事用道路で、自動車も通るので、甘くみていたが、予想以上にきつい。

11:30 登頂。

標高 720m。国東半島の最高峰。一等三角点がある。



久しぶりに山に登った実感が湧いてきた。

10分ほどで下りにかかる。



全国森林浴の森百選の木

漏日を楽しみながら下る。「出口」を見つけて、鬼の背割に入る。

鬼の背割は、20mほどの高さの岩が二つに裂けた所で、裂け目の底部が、人が通れる程度に広げられている。何故こんな地形があるのか、文字通り不思議である。

このまゝ下れば奥の院に出ることは分かっているが、足場が悪いので、林道に戻り、和子に追いつき、3人で両子寺へ下山した。



のんびり下ると、色々なものが目に入ってきて楽しい。

鬼の背割

歌碑が二つ並んでいた。左は言語学者金田一京助博士が昭和44年に来られたときの作。右はご長男で、やはり言語学者の金田一春彦博士の作。誰もが、三省堂の国語辞典でお世話になった、国民的学者の歌碑である。

春彦氏の歌は「亡き父の・・・」とあり、京助氏の没後、父を懐かしんで歌ったものと思われる。



山川の

おとは父母の

愛に似て

かわることなし

絶ゆることなし

京助

山川の

瀬音の中に

身をおけば

亡き父の 我を

諭す声 聞ゆ

春彦

歌碑の周辺でみた  
石仏を紹介する。

左は寺の名前の由  
来にもなる、双子を  
慈しみ、育てる聖母  
観音である。

遅くなったが、そ  
ば処「両子河原座」

で昼食。テラスで今下りてきた両子山を眺めながら、1時間半待ち。お薦めの蕎麦も天むすも満足。15:00帰途につく。



両子山山頂



両子川原座

途中、15：30 行入ダム。 湖に2連の鯉のぼりが美しい。



行入ダムの鯉のぼり

Fマート国東港店 15：52 出発～(洋)～道の駅国東～(和)～梅光社武蔵館～(知)～形研精工～(洋)～安岐港～(和)～室屋バス停～(知)～狩宿バス停～(洋)～守江郵便局～(和)～ドラッグストア／大内～(知)～20：00 ホテル稻里 (泊)

5月5日／晴れ 朝の中に、今回の目的地、杵築駅までの5kmを歩く。

ホテル稻里 06：30=(全)=06：45 本庄交差点～(洋)～07：40H稻里

(和)～07：30 杵築駅=07：50



佐野ノブツネさん (右)

8：30～11：30 観光ガイド佐野ノブツネさんの案内で、人口3万の城下町、杵築を観光。

杵築城から西に伸びる谷筋に商人街が栄え、谷を挟んだ南北の高台（北台と南台）に武家屋敷丁（町の意味）が並び、全国に例のない、サンドウィッチ型城下町を形成。両丁（町）を繋いで坂道が交叉。和装の女性が似合う、風情のある景観となっている。元は「木付」であったのが、幕府からの朱印状に「杵築」と誤記され、以後、「杵築」になった。・・・ そうである。



観光案内にはない、興味あるお話をたっぷり聴き、3人×3時間で3,000円は申し訳なし。

11:30 佐野さんとお別れし、宇佐に向かう。

12:24 トヨタレンタリース宇佐店到着。清算し、500mもない距離を宇佐駅まで送ってもらう。

宇佐駅 12:49 =日豊本線（ソニック28号）=小倉=14:01 門司港 14:40～門司港トロッコ駅

14:35 発=潮風号=14:50 布刈駅 15:00=潮風号=15:15 門司港駅



関門海峡に沿ってゆっくり走る。潮風が入って気持ち良い。この海岸は九州西海岸の初日に歩いており、またこの4月に東海岸を出発した場所で、「また来たよ」と胸のなかで呼びかけた。

16:10 鉄道記念館入館。童心に帰って鉄道と遊ぶ。



16:47=17:00 小倉 17:26=みづほ 606号=16:52 岡山=やくも 25号=21:23 米子帰着（知・和）

△=みづほ 606号=19:38 新大阪帰着（洋）

## 7. 費用

交通費	J R	99,740
	タクシー	2,700
	レンタカー	25,940
	合計	128,380
宿泊費	東横イン（小倉）	14,600
	ホテルAZ	15,970
	ホテルいな里	17,000
	合計	47,570
食事・飲み物		16,130
雑費	ガイド料	3,000
	入場料	2,700
	トロッコ運賃	1,800
	その他	3,780
	合計	11,280
総合計		203,960

一人当たり=67,987円

## 8.、洋子感想

私にとって二回目の歩く旅。

前回は人間が本来持っている「歩く力」のすばらしさ。そして一步一歩あゆみを進めたことから生まれる、その土地への愛に気づかされた。

それを踏まえての二回目。「どんなドラマが待ち受けているのか・・・」と心が躍った。

前回の鹿児島、そして今回の国東半島。その土地の風土、地理、人、歴史など、その違いは興味深く、肌で感じるものも多かった。

三泊四日の旅を終えたいま、私のなかに一番強く残っているのは、人生を「生きる」という、すべての人に与えられた、一見曖昧で複雑なもの考察であった。

どんなに歳を重ねても、人生を「生きる」ことへの情熱を失わない両親。未知への好奇心。無防備かとも思える計画をやり遂げる執念にも似た行動力。それらを熱く持ち続ける二人の、「生きる」を側で見ながら、私自身のこれから「生きる」を歩みと共に考えた。そしてこれからも少しづつ形を変えながらも続くであろう「歩く旅」への同行で、その答えを探してみたいと思う。

以上